

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	平成30年2月26日(金) 19:00～21:00
場 所	大会議室(徳島大学病院中央診療棟)
出 席 者	滝沢会長、金山部会長、寺嶋委員、郡委員、後藤委員(井織代理)、渡辺委員、安藤委員、漆川委員、正宗委員、林委員、森委員、宮上委員、山口委員、東條委員(萩田代理)、中村委員、川崎委員 ※()は代理出席者〔敬称略〕
実務者	徳島大学病院:鈴木副看護部長、三木看護師長、福田社会福祉士、宮崎臨床心理士、秋月社会福祉士、丸龍相談看護師 徳島赤十字病院:島村社会福祉士 徳島県立海部病院:垣内社会福祉士
欠席者	藤原委員、坂東委員、片山委員、鎌村委員
陪席	徳島県健康増進課:前田係長 徳島大学病院:小林副課長、古田専門職員、宮越事務補佐員

議 題

金山部会長の司会進行のもと、がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議が開催された。開催にあたり、滝沢徳島県がん診療連携協議会会長から挨拶があった。

【報告事項】

1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について

徳島大学病院実務者の鈴木副看護部長から、別紙資料1「第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会」についての報告があった。

(1) 第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会について

平成29年7月12日に第9回部会が開催され、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会金山部会長が欠席のため、鈴木副看護部長と秋月社会福祉士が参加した。

1) 1. 第3期がん対策推進基本計画(案)の概要としては全体目標が、がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指すである。①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実②患者本位のがん医療の実現③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築である。

2. 第3期がん対策推進基本計画(案)における相談支援、情報提供の記載として患者が、治療の早期からがん相談支援センターの存在を認識し、必要に応じて確実に支援を受けられるようにするため、拠点病院等は、がん相談支援センターの目的と利用方法を院内に周知することが必要である。

3. 第3期がん対策推進基本計画(案)における就労支援の記載として診断早期の離職を防止するため、拠点病院等をはじめとする医療機関の協力の下、ポスターやリーフレットを活用すること等によって、がん患者に対する治療と職業生活の両立支援について、周知を図る。「両立支援コーディネーター」と主治医等、会社・産業医による「トライアングル型サポート体制」を構築することが必要である。

4. 第3期がん対策推進基本計画（案）における就労支援以外の社会的問題の記載として、がん患者の更なるQOL向上を目指し、生殖機能の温存等について、的確な時期に治療の選択ができるよう、関係学会等と連携し、相談支援、情報提供のあり方を検討する。また、家族性腫瘍に関する情報を集約化し、診断、治療、相談体制の整備や人材育成等について検討する。さらにはがん患者の自殺を防止するためには、がん相談支援センターを中心とした自殺防止のためのセーフティネットが必要である。

5. がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針の見直しについて相談支援センターの体制、相談支援センターの業務について提示があった。

2) 「がん相談支援センターの相談対応体制と情報提供環境に関するアンケート」の中間報告ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について報告があった。また、今後の取り組みについては、第3期がん対策推進基本計画に基づくがん診療連携拠点病院の整備指針に対して盛り込むべき内容について、「がん診療連携拠点病院等の指針要件に関するWG」への提言を検討するためのワーキンググループを発足させる。

3) 環境省からのお知らせ：アスベスト対策に関する情報提供があった。石綿健康被害救済制度については、独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）石綿健康被害救済部、アスベストで病気になり、労災保険等で救済されない方とそのご遺族を対象とした救済制度がある。なお、石綿救済相談ダイヤルは0120-389-931である。

4) がん相談支援センターの災害対策については、これまでの大規模災害におけるがん相談支援センターに関する情報収集と提供について報告があった。

5) がん対策情報センターからのお知らせ等について

①地域相談支援フォーラム開催報告・開催予定・企画募集と今後の方向性について報告があった。

②がん相談支援センターと地域の機関との連携について（図書館へのがん情報普及事業「がん情報ギフトプロジェクト」他）

③平成29年度相談員研修ならびに国立がん研究センター認定事業について報告があった。

6) 第3期がん対策推進基本計画に基づくがん診療連携拠点病院の整備指針についてのワーキンググループメンバー推薦書送付のお願い（7月19日〆切）があった。第10回情報提供・相談支援部会は2018年5月24日（木）13:00～16:30、国立がん研究センター新研究棟1階で開催予定である。

2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、別紙資料2「徳島県民がんフォーラム2017実施報告者」について報告があった。

① 平成29年9月10日（日）13:30～15:35徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。

② 内容は徳島県がん診療連携協議会滝沢会長、徳島県保健福祉部の鎌村次長、NPO法人AWAがん対策募金の勢井代表らに講演をいただいた。

③ 当日の総来場者は591人と非常に多数の参加があった。アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、今後も引き続き毎年市民公開講座を行いたい。その際には協力をお願いしたいとの要望があった。

3. PDCAサイクルについて

福田社会福祉士から、別紙資料3に基づき「徳島県がん相談支援センターPDCA実施状況チェック

リスト」について説明と報告があった。

今年度も昨年同様、徳島県の都道府県がん診療連携病院・地域がん診療連携拠点病院で実施を行った。チェックリストは全国の様式を徳島県版として置き換えてオリジナルで作成して使用している。今年度も自施設でチェックを行い、他院の実施状況を把握し、他院の取り組みも参考にしながら情報共有や情報交換などに活用している。また、各病院のがん相談支援センターの質の向上や均てん化に向けて、今後も実務者ワーキングでも検討していきたいとの要望があった。

宮上委員から、チェックリスト項目「認定がん相談支援センターの認可を受けている」に県内病院はチェックが入っていないが、ハードルが高いのか、また近々受けられるのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、認定がん相談支援センターは認定がん相談員が数名いなければ認可を受けられない。がん診療連携拠点病院の要件にもなっていないため、各施設とも許可が受けられていない。今後、認定がん相談員が増えてくれば許可が受けられるとの回答があった。

金山部会長から、認定がん相談支援センターの認可を受けるのは難しいのかとの質問があった。

宮崎臨床心理士から、認定がん相談員が1施設2名以上いないと認定を受けられないとの回答があった。

金山部会長から、認定を受ければ加算算定など何か良いことがあるのかとの質問があった。

島村社会福祉士から、認定を受けても何も変わらない。ただ、認定がん相談支援センターになるには費用は十数万円程度必要であるとの回答があった。

金山部会長から、条件を整えて認可を受けていただきたいとの要望があった。

4. 実務者のがん相談支援センター相談員研修会等について

福田社会福祉士から、別紙資料4「徳島県がん相談員研修報告」について報告があった。

①地域対象研修会を平成30年1月28日吉野川医療センターで開催した。内容は徳島県西部医療圏がん相談員養成研修会、参加人数は12名であった。アンケート結果・当日の写真は資料を参照いただきたい。

②拠点病院対象研修会を平成30年3月4日徳島大学病院で開催予定である。内容は分子標的薬、免疫チェック阻害薬、免疫療法やその副作用等について行う。参加募集は50名程度である。現在は25名の申込であり、まだ参加が出来るため関係者に周知いただきたい。

金山部会長から、今回は西部地区が対象であったが、去年度はどうしたのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、一昨年に西部・南部・東部医療圏と開催したため、昨年度はステップアップとして緩和ケアについての研修を行ったとの回答があった。

金山部会長から、来年度の予定は堂なのかとの質問があった。

福田社会福祉士から、来年度も引き続き研修会を開催したいため、関係者と相談しながら企画を行いたいとの回答があった。

【協議事項】

5. 来年度事業計画について

福田社会福祉士から、香川大学病院から連絡があり、四国ブロック「相談対応の質保証(QA)」研修計画予定表(案)について案内があった。講師については国立がん研究センターから派遣していただ

ける。県単独でも研修可能ではあるが、参加人数も少なくなるため横のつながりも行えるため四国ブロックで開催してはどうか、3年計画のため年毎に各県持ち回りで開催をしてはどうかとの提案があった。この計画は案であるが、出来れば一緒に開催する方向で進めさせていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、4県から対象者を募り開催するとのことで連携も図れるのではないかと意見があった。

出席委員で検討の結果、了承された。

金山部会長から、来年度は高知で開催するのかの質問があった。

福田社会福祉士から、香川県が主導で行うため、決めていただけるとの回答があった。

続けて福田社会福祉士から、地域相談支援フォーラムの募集に、四国ブロックで香川県がん診療連携協議会相談支援部会が応募して採択された。来年に四国ブロックでの地域相談支援フォーラムを開催したいとの報告があった。

6. その他

金山部会長から、本日参加された委員の方から一言ずつ挨拶をお願いしたいとの要望があった。

(徳島県立三好病院)安藤委員から、緩和ケア内科と緩和ケア病棟を担当している。徳島県立中央病院から寺嶋先生にも来ていただいている。緩和ケア病棟があるため、患者さんのご紹介もお願いしたいとの要望があった。

(徳島県鳴門病院)漆川委員から、特に何もないと報告があった。

(阿南共栄病院)正宗委員から、緩和ケア等は充分に出来ていないため、勉強をさせていただきたいとの意見があった。

(吉野川医療センター)林委員から、当院も特に報告事項がないとの報告があった。

(徳島県保健所)宮上委員から、徳島県のがん対策計画に基づき、健康教育や市町村のがん検診の実績のとりまとめや統計処理を行っている。次世代教育事業として高校に出向いての実施は保健所が行った件数はないとの報告があった。

(徳島県介護支援専門員協会)萩野委員から、介護支援専門員協会ではがん患者さんの相談などの機会もあるため、今回の部会の現状を持ち帰り、支援が出来るよう関係を深めていきたいとの意見があった。

(患者会)川崎委員から、個人的には国立がん研究センターの患者パネラーを行っている。患者としてゲノム医療を気にしているため、今後のフォーラムなどに企画していただきたい。また、相談支援として患者目線では病院により差があり整っていないように思われるため、均一した相談支援をお願いしたいとの要望があった。

(徳島県薬剤師会)中村委員から、今後、地域連携を進めていくために、病院薬剤師と薬局薬剤師との連携を図っていければと考えているが、なかなか進まないのが現状である。今後、地域連携において薬剤師として何かできるのかも含めて検討していきたいとの発言があった。

(徳島県歯科医師会)山口委員から、がん連携に関して口腔ケア・口腔粘膜などの言葉を聞く機会が少なくなっているのではないかと、がん相談支援センター等で歯科の領域の情報発信をお願いしたいとの依頼があった。

(徳島県医師会)森委員から、医師会向けのフォーラム等を行っていただきたいとの要望があった。

(徳島県立中央病院)郡委員から、がん相談の実務者としてがん患者さんに携わってきた。川崎委員

からも意見がありましたが、がん患者さんが気軽にがん相談支援センターやがんサロンなどを利用していただけるよう周知を行っていききたいとの要望があった。

(徳島市民病院)渡辺委員から、昨年6月に緩和ケア病棟を開設した。今年、2月16日より片山医師が着任した。1か月の研修終了後に緩和ケア病棟の責任医師になっていただく。今後は積極的に受け入れを行っていききたいため、紹介いただきたいとの要望があった。

(徳島県赤十字病院)井織代理から、後藤委員の代理で事務が出席した。がん診療が今後ますます重要になる領域とは理解しているが、なかなか体制が整わない。院内で啓蒙していくところに力を入れることが必要と考えているとの意見があった。

郡委員から、PDCA実施状況チェックリスト項目にもあったが、出前講座などはあるが、出前相談など病院まで来られない方に出向いていき、場を設ければ参加される方もいるのではないかとの意見があった。

川崎委員から、出前相談は一部実施している。患者会に来られなかった方の自宅に出向いて相談を受けたり、カフェで相談を受けたりされた方も数名いる。出前相談など広めていく必要があるため、がん診療連携拠点病院として取り組んでいただきたいとの意見があった。

漆川委員から、家族性腫瘍の遺伝相談を始めた。ご紹介をいただきたいとの要望があった。

金山部会長から、口腔ケアや遺伝相談などの情報などを発信する場として、徳島がん対策センターのホームページに掲載をすれば、患者さんも助かるのではないか。その他、色々ながんに関する情報があれば掲載を行いたいため協力いただきたいとの要望があった。また、森委員からの要望のフォーラムは来年度開催する予定で企画中であるとの報告があった。

金山部会長から、今後ともご協力をお願いしたいとの要望があり、閉会となった。